

## ETA-ROC

The 21st International Symposium and Book Fair on English Teaching (第 21 居中華  
民國英語文教學國際研討會) 參加報告

笹島茂

埼玉医科大学

11 月 9 日～11 日に台北で開催された ETA-ROC (English Teachers' Association of the Republic of China)の大会に JACET の派遣で出席した。大会テーマは「What's Next for the Future of English Language Teaching?」であり、私は、「Focus on Content-CLIL Can Change EFL Teachers' Perceptions」という題で発表させていただいた。全体として、有意義に過ごし、多くの方と交流し、心地よい大会であり、運営サイドのおもてなしに感謝したい。大会の内容に関しては、ETA-ROC のウェブサイト (<http://www.eta.org.tw/en/index.html>) をご覧いただきたい。関心のある方はぜひ参加してみたいかと思う。日本の方も数はそれほど多くはないが参加していた。また、Featured Speakers の一人として投野由紀夫氏が招かれていた。各発表はほぼ英語であったが、いくつかのセッションは中国語だった。提携学会として、JALT、KOTESOL (韓国)、PALT (フィリピン)、ThaiTESOL (タイ) からの派遣があり、3 日間多くの話題を共有できたことは有意義であった。

ここでは、二つのことを報告したい。一つは大会運営に関することである。印象として、出版社などとの関係が密であり、それが大会の運営の心地好さともつながったと考える。費用面で出版社などから相当の援助を受けて大会が実施され、参加費が安いにもかかわらず、資料などが充実していた。また、ブックフェアと謳っているとおり、大会会場よりも出版社の展示販売の場所が広く、人も多く集まり、活気があった。また、発表も出版社関連の内容が充実していたように思える。この点はおおいに参考になった。

もう一つは、PAC (the Pan-Asian Consortium of Language Teaching Societies)に関することである。二日目に開催された提携学会のミーティングで、次回フィリピンのセブ島で 2013 年 12 月 5 日～7 日に実施される PAC 2013 の話が出ていた。日本では JALT が運営にかかわり、JACET はかかわっていないので蚊帳の外であったが、興味深い大会が行なわれるようである。また、この PAC の話題の中で、ETA-ROC が「TAIWAN」ということばを何故使えないのかという台湾が抱える政治的な問題も吐露された。

以上、簡単に参加報告をさせていただいた。大会自体はこじんまりとした大会であるが、台湾の英語教師や教員養成に関心を持つ者として、とても興味深い発表内容が多かった。もっと頻繁にこのような会がアジアで行なわれることを期待したい。